

院長にインタビュー

院長

なが しま さとる
長島 悟 先生

「患者様の健康をも改善でき、より充実した生活を送っていただけることに、やり甲斐を感じる。」

「長島デンタルクリニック」は、1996年に横須賀市に開院されたクリニック。院長である長島悟先生は、長年インプラント治療に携わっており、他医院では治療が難しい症例も数多くこなされているベテラン歯科医師です。今回は患者様からの信頼も厚い長島先生に、気になるインプラントのことやクリニックのことなどについて伺いました。

治療を終えた患者様は「思っていたよりも楽でした」という方がほとんど

—— まずはいきなりですが、長島先生が考えるインプラントの最大のメリットとは何でしょうか？

インプラントのメリットは、噛み合わせに復元、あるいは保持にあると思います。

入れ歯は費用を抑えられる一方で、違和感が大きく、針金で支えている歯が虫歯や歯周病になりやすいという様々な欠点がありますし、自分の歯との大きな違いは、噛む力を支えることができないことです。



そのために残っている歯に負担がかかり、歯が徐々に失われていきます。

しかし、インプラントは保険適用外ですが、噛む力をしっかりと支えてくれますので、**周りの歯に負担をかけることはありません。**

—— それでは、実際にインプラントにされた方のお声はいかがでしょうか？

インプラント治療をされた患者様は、「口元に自信がつき、人前で気兼ねなく笑うことができます。」や「以前は友人と旅行に行っても、食事がつまらなかったが、今は楽しい時間を過ごすことが出来て嬉しい！」等、**皆さん本当に満足されています。**

—— 歯に力が入ると様々な効果が期待できるのでね！

でもインプラントは「何となく怖い」というイメージを持つ方も多いと思います。**実際のところどうでしょうか？**

初診相談の時には、初めてインプラントにされる方が多く、「骨を削る」や「骨の中にインプラントが入る」



という従来とは全く異なる歯科治療ですので、なかなかイメージもつきにくく不安を持たれるのは当然だと思います。ですが実際のところ、**治療を終えた患者様は、「思っていたほど腫れや痛みがなく楽でした。」**という方がほとんどなんです。

より最適な治療法をご提案し、安心していただくことがコミュニケーションの第一歩

—— 知らないことが「怖い」に繋がるのかもしれませんがね。

では、常に進化するインプラントの最先端技術や知識をどのように習得していらっしゃいますか？

日本口腔インプラント学会や国際口腔インプラント学会に所属し、積極的に学会に参加しています。また、歯科医療機器メーカー主催のデンタルショー（展示会）にも足をのばし、知識だけでなく臨床で役立つ最新の器具、材料の情報を得るようにしています。

多くの先生方との交流の機会に恵まれており、数多くのインプラント治療に携わっております。

—— 患者様とコミュニケーションをとる上で心掛けている点がありますか？

限られた時間の中、カウンセリングでお聞きした患者様の情報を院長だけでなくスタッフ全員で共有し、いつも笑顔でお迎えするように心掛けています。

そして、患者様によりよいインプラント治療をご提案し、安心していただくことがコミュニケーションの第一歩であると考えています。

—— それでは長島先生、ズバリ！クリニックの強みはどこでしょうか？

当クリニックでは、硬い骨には「チタンインプラント」、薄くて柔らかい骨には「HAインプラント」、神経までの骨の厚みがない時には「ショートインプラント」、というように3種類のインプラントを患者様毎に使い分けています。

そして、一番のセールスポイントは、**抜歯直後にインプラントを埋入する「抜歯即埋入」**を得意としており、そのインプラントのセミナーの講師も長年続けております。

—— 講師もされていていらっしゃるんですね！

話は変わりますが…ご多忙だとは思いますが、先生は休日をごどのように過ごされていますか？

インプラント手術は特に集中力が求められます。そのため体調管理が大事と考えており、定期的にジムに通っています。

また、自宅の周りには多くの寺院があるので、散策したり、なるべくゆっくりした時間を過ごしてリラックスするように努めています。あとは集中力を養うために、ピアノを始めました（笑）。

—— ご趣味も全て仕事に繋がるんですね。

最後になりますが、長島先生にとって、この仕事の喜びとは何でしょうか？

私が治療させていただいたことによって、患者様の食べる楽しみが回復し、さらに健康をも改善でき、より充実した日常生活を送っていただけることに、大きなやり甲斐を感じています。そして、一人でも多くの患者様が「インプラント治療をして良かった」と思っただけよう、これからも努力していきたいと考えています。